

5/25
朝日

総監視社会へ回帰 「共謀罪」

無職

(岡山県 75)

国連特別報告者、シヨセフ・カナタチ氏が「共謀罪」法案について、「プライバシーや表現の自由を制約するおそれがある」と懸念する書簡を安倍晋三首相に送ったと報じる社会面記事(21日)を読んだ。目にした瞬間、「見る人は見ている」と私は感動した。日本政府は国連に抗議したという。法案は23日の衆院本会議で可決。参院に送られたが、私は昔の一億総監視時代に逆戻りしないかと怖い。

特別報告者は、国連の任命を受け、特定国の人権状況などを調査、監視、公表する専門家である。カナタチ氏は、法案の

「計画」や「準備行為」が抽象的で恣意的な適用のおそれがある、対象犯罪が幅広くテロや組織犯罪と無関係のものを含む、などと指摘した。

政府は「一般人は捜査対象外」と説明するが、対象外か否かどう見分けるのか。私は密告者を生まないかと心配する。

戦後間もなく家族で昼食中、密告により警察に踏み込まれた。理由は「隠した米を食っている」だった。当時、農家は米の供出が義務だった。実家も農家で、正当な割り当ての米に麦や芋を混ぜた飯をまれに食べたが隠すなんてとんでもない。誤った密告情報で警察は動いた。あの怖さが身に染みている。